

# 都城における坪・町と小規模宅地の検証

## 都城制研究集会シンポジウム

2月20日(土)

10:00~17:00

奈良女子大学

文学系N棟101教室

条坊制を施工した日本古代都城では、平城京で坪・町を基本にしつつ、それを1/8、1/16、1/32などに細分した小規模宅地が現れました。そして平安京では、通例戸主制と呼ばれる1/32町区画が確立します。また、宅地の所在を表す条坊制の坪付呼称にも変遷があり、平城京や初期の平安京では、坪や町の制度上の意義がまだ曖昧のままです。宅地割は都城の住民構成を反映し、坪付呼称は宅地を掌握する方式であり、それらの変化は都城の性格変化を意味するものです。はたして、都城の坪や町の意義はどこにあるのか、1/32町区画と戸主制は同一視できるのか、議論は十分に尽くされていません。

本シンポジウムでは、平城京・長岡京・平安京の各都城における宅地のシステムを、坪・町や小規模宅地・戸主制の内容から検証します。そして条坊坪付呼称の変遷、小規模宅地や戸主制の制度とその実態を、文献史料と発掘成果の両面から具体的に考察することをめざします。

10:00~12:30

平城京の小規模宅地

原田憲二郎(奈良市埋蔵文化財調査センター)

難波京の条坊区画

積山 洋(大阪歴史博物館)

長岡京の小規模宅地

小田桐淳(長岡京市埋蔵文化財センター)

平安京の小規模宅地

南 孝雄(京都市埋蔵文化財研究所)

13:30~15:10

文献史料から見た平城京の小規模宅地と坪付呼称

館野和己(奈良女子大学)

文献史料から見た長岡京・平安京と町・戸主

西山良平(京都大学)

15:20~17:00 討 論

主催 奈良女子大学古代学学術研究センター (phone./fax. 0742-20-3779)

共催 科学研究費補助金 基盤研究 (B)「東アジアにおける難波宮と

古代難波の国際的性格に関する総合研究」(研究代表 積山 洋)